

第2回技術検討会の主な意見について

(今後の治水に向けて考慮すべき降雨について)

- H25年は温暖化の影響を受け始めている時期と言える。気候変動を踏まえた目標設定にあたっては、現在国で検討中のマニュアルに沿ってH25洪水の位置づけを確認しアンサンブルによる手法なども用いながら検討していく必要がある。
- H25洪水では、木津川のダム群が的確に機能したが、ダムの能力を少しでも超えると、ひどい状況になっていたかもしれない。木津川の降り方が変わる場合などの検討も必要。
- 気候変動で降雨量が増加すれば土砂流出量も増えることとなり、三川合流部などでは特に堆積しやすくなるため、その影響の検討が必要である。

(淀川水系のさらなる河川整備について)

- 天ヶ瀬ダムの事前放流や再開発後の運用など、既存施設を最大限に活用する検討を行った上で、大戸川ダムによる合理性を示す必要があるのではないかと。
- 流域治水の効果の定量化に向けた技術開発等の取り組みは必要。

第2回技術検討会の主な意見について

(提言骨子 (たたき台) について)

- 流出土砂の対策などについても含める必要がある。
- 流域治水は、住民の協力によるところもある。技術面のみでなく社会システム面でも仕組み作りが必要。また、流域治水の推進を打ち出すべき。
- 桂川の治水安全度は著しく低い。日吉ダムの利水容量の振り替えや農地の利用や土地利用など流域治水の観点からも検討していく必要がある。
- 流域治水については、これまでの水防法と河川法の枠組み等にとらわれることなく、実際の対象地域をイメージしながら議論していくべき。
- 2℃上昇は30年後に迫っており、ゆっくり構えていられる状況ではない点は強調したい。